

# 学校ボランティア通信

## ～六角橋中学校～

目次
「活動で得たもの」
電気電子情報工学科 4 年 霞那香
多人数においての個別支援
人間科学科 4 年 矢島 芽以
関わり
人間科学科 4 年 杵塚 悠
アシスタントティチャーになっ て学んだこと
法律学科 4 年 崎井 優太
ATで得たもの
人間科学科 4 年 柴田 大稀
現場で活動することの難しさ
人間科学科 3 年 河上 誠貴
意識の向上
人間科学科 3 年 中嶋 一進
生徒への声掛け
人間科学科 2 年 上野 実恵子

### 「活動で得たもの」

電気電子情報工学科 4 年 霞 那香

私は3月からボランティア活動を始め、週に1回六角橋中学校で数学科のATとして活動させていただいています。まだ不慣れなところもありますが、少しずつボランティア活動に慣れてきているところです。私がボランティア活動を始めた理由は、教育実習に向けて少しでも学校現場を知り、教師という立場でどのような活動をしているのか体験したいと思ったからです。

私は1年生の数学を担当していて、主に2人の先生の授業のどちらかに入り活動をしています。活動内容としては、演習などを行っているときに机間巡視を行い、手が止まっている生徒に対して声掛けをしています。その他には、先生が板書をしている時にノートやプリントに板書の内容を書き込んでいない生徒に対して、授業に参加するように促したりしています。机間巡視を行いわからない問題に対して個別に指導を行うときに、最初はどのように生徒に説明すれば理解してもらえるのかとても難しいと感じていました。しかし、先生の説明の仕方を聞いてみると、生徒一人一人に合った説明を的確に行っていたりその他にもヒントを出して考えさせたりといろいろな手法を用いていました。そこで、すべての生徒に対して同じ説明をするだけではだめなのだと改めて気づかされました。またそのためには、何通りもの考え方をしっかりと押さえておかねばならないので、更に教科の勉強が必要だと感じました。

また、始めたばかりのころは生徒とどのように接すればよいのか分からず、休み時間に集団で話している生徒に対して話しかけてもよいのか、どのくらいの距離感が必要なのかという事に困惑していました。そんな時に、あるクラスの先生が「どんどん生徒と話していいんだよ」と声をかけてくださって、実際に生徒に話しかけてみるとすぐに話の輪に入ることができました。そのおかげで今までよりも、授業で理解できない問題があった時に生徒が質問する回数が増えました。また授業以外にも廊下で生徒とすれ違った時に、生徒の方から「今日うちのクラスくる？」など声を掛け、話をすることもあり、本当にコミュニケーションは大切だと感じ、今後も積極的にコミュニケーションをとっていこうと思います。

まだボランティア活動を初めて3ヶ月程しか経っていませんが、こんなに少しの期間でも本当に多くの事に気づかされました。これからたくさんの事を吸収して、成長していきたいと思っています。

## 多人数においての個別支援

人間科学科 4年 矢島 芽以

今年度から、六角橋中学校の個別支援学級にアシスタントティーチャー(AT)として行くこととなりました。もともと他校で個別支援学級のATをしていましたが、より多い人数の個別支援学級が見てみたかったため希望しました。やはり学校が変わり人数が増えると、クラスの雰囲気が変化するだろうなと思っていた私の予感的中しました。

第一に、生徒が多いと個人への支援と言うより集団として見てしまいがちだということです。個別支援学級では一般級よりは生徒が少ないため、今までは一人一人を見てどのようなサポートをしようか考えてきました。しかし少し人数が増えるとクラス内でグループができていたため、つい今までのような一人一人見るのではなくグループとして生徒を見てしまいました。そのため一人一人へのサポートを考えるととても困りました。生徒が何をハンデとして何を達成していきたいかわからないのです。特に六角橋中学校の個別支援学級の生徒は、どのような支援が必要か判断の難しい生徒ばかりだったので尚更でした。もちろん生徒同士の人間関係を見ることは私が生徒の間に入っていくのにとっても役に立ちましたが、それ以上に個人を見てサポートを考えることの重要性を感じました。

第二に、本来の意味での個別支援の重要性です。生活していく上でのハンデがたくさんある生徒もいれば、それほどない生徒もいます。クラスの生徒一人一人の抱えているものが異なるため、状況に応じた支援を準備し進めていく必要性を感じました。しかし、教師が生徒に一对一で支援を行うには人数が足りないためうまくいかないことも多々あります。課題の達成が早い生徒の丸つけばかりに手を動かしてばかりの時や、一人の生徒ばかり見てしまい、他の生徒が見られないということもありました。そのためには1年生、2年生、3年生という括りを超えた、能力に応じた少人数指導が必要と感じました。どうしても人数の多さから授業ではなかなか個別に見ることは難しいですが、私が達成度を確認するところや確実に教えるべきものを

取捨選択し、もともとの課題の量を調節するなど個人の支援を考えながらも全体を見ることが求められていると思いました。

今までは3～7人の個別支援を体験しており、だいたい一人の先生が1～3人の生徒を考えて動いていくことを学びました。しかし六角橋中学校ではその二倍以上の生徒がおり、さらに生徒の能力やハンデが一人一人異なります。今回のボランティアで、集団としての生徒を見るだけでは掴めない本質があることを改めて感じました。私はこれから教育実習に行きます。今個別支援級で体験させていただいた人数よりさらにクラスの人数は多いです。ボランティアでの経験や今回改めて重要性を感じた「個人に目を向けること」を生かせる良い実習にしたいと思います。



## 関わり

人間科学科 4年 杵塚 悠

六角橋中学校でATとしてボランティアを始め、実際の学校現場を見られ、多くのことを学んでいます。六角橋中学校では、出会うどの生徒もあいさつをしてくれます。生徒たちが気持ちよくあいさつしてくれるいい学校で、いい雰囲気です。将来、私は保健体育の教員を目指しています。そこで、このATの活動を通して授業での声掛け、集会や行事の整列の指示、生徒との関わり方など学びたいと思っています。特に、雰囲気や見た目で体育の先生だというのを感じさせることができるようになりたいのが私の目標です。活動を続ける中で、教師の立場として考えるとこんなにも大変だったのだと感じています。授業中しゃべっている生徒に対しても、教師によって注意する方法はさまざまです。声を大きくして注目させる、個人的に注意する、話すのを止めて静かにするまで待つなど違いがありました。すべてが自分にとってとても新鮮でありつつも、どこか懐かしいと感じていました。その少しの工夫が、生徒にとっても、教師にとっても理解を促すことなのだと改めて感じました。

今年度も、六角橋中学校でまたATとしてボランティアをさせていただいています。保健体育科教員の指導法の中の生徒指導を重点的に見ることで、授業規律やルール、それに応じる生徒の態度などに注目して現在活動を行っています。なぜ、その生徒指導に着目したかという、体育の授業では、体を動かすことが第一である上、水泳や柔道、器械運動などケガや事故が起きてしまう可能性が他の教科に比べて高いからです。そのため、安全面には十分な配慮と注意が必要であるので、授業を行う際には、生徒が規律を守る雰囲気のための指導が必要不可欠であるのだと思っています。だから、体育の先生は見た目から生徒を引き締めさせるような雰囲気を感じさせることができると私は思います。それができてから授業の内容を指導できるのだと感じました。ですが、私にはまだその能力がありません。このATの活動を通して先生方の指導法を真似することから始め、実践までできるように挑戦したいです。

また私は、サッカー部の指導もさせていただいています。ATの活動を始めたときに指導していた1年生は主力選手になり、チームを引っ張る選手になりました。部活動指導では、今、自分にできる指導法は、一緒になって動きながらアドバイスや修正をしていくということだ、と私は思い実践しています。理論的に教えることは難しいが、実際に動きながらなら、自分の経験を踏まえたことを教えることができます。顧問の先生のように的確な指導はまだ自分には無理ですが、今、自分にしかできないことをできるだけ多くの生徒に伝えていきたいです。

ボランティア活動をさせていただくことで、生徒が今までできなかったことができるようになる場面を見ることが、いかに魅力的で感動的であるかということ、身をもって知ることができました。週に一度の活動しかしていない私でも、生徒の様々な変化に気付くことができます。毎日生徒たちと顔を合わせている先生方は、私よりはるかに多くの生徒の成長の瞬間というものを目の当たりにしていることと思います。教師という仕事は大変な苦勞も伴うとは思いますが、感動と出会う場面もたくさんあるということを知ると、より教師を目指す気持ちが強くなりました。



## アシスタントティチャーになって 学んだこと

法律学科 4年 崎井 優太

私が六角橋中学校に個別支援学級のアシスタントティチャーとして行くようになって早くも2ヶ月が経ちました。初めは知識でしか個別支援学級というものを知らなかったのですが、どのようにコミュニケーションをしてよいのかわからず、右往左往して特に効果的な指導などができずに終わりました。しかし3回目からは、一緒にアシスタントティチャーに來ているボランティアの学生の動きを参考にし、次の二つのことに注意して動くようにしています。

一つ目は、私の名前を名札にわかりやすく書き、まずは名前を覚えてもらうことです。そして私も生徒の名前を積極的に呼び、コミュニケーションをとるようにしました。これは、当たり前なのですが名前を覚えてもらうことができれば、そこから親密な関係を築くことができ、勉強や作業の指導をスムーズに行うことができるようになります。

二つ目は、1日にその学級にいるすべての生徒を万遍なくみるのではなく、1,2人の生徒を集中してみるということです。これは私の視野が広くないということもありますが、個別支援学級には様々な障害を持つ生徒が通っており、その障害によって最善の指導方法が変わってくるからです。少数の生徒をしっかりと観察することで、その生徒にあった指導を発見できると思い、1日に集中してみる生徒を1,2人に絞ることにしました。

以上の2点はまだアシスタントティーチャーを始めて日の浅い私や、他のアシスタントティーチャーの行動などから注意するようになった点であるため、これが本当に正しい行動であるのか自信はありません。多くの経験を積み、できるだけその生徒にあった指導ができるように努力しようと思います。

## ATで得たもの

人間科学科4年 柴田 大稀

ATをやらせてもらうことにより、自分の力量を増やすことができるのではないかと思います。毎週金曜の午前中、六角橋中学校に行っています。また、朝練や土日部活動へ参加し、バスケットの指導も勉強させてもらうことで自分の理想のバスケットボールの指導に近づけたと思います。初日から自分のことを先生と呼ばれた時はすごく嬉しかったです。しかし、初めてのことばかりで、最初は何をしていいかわからずただ突っ立てることも多く、自分で動くこともなかなかできず戸惑うこともたくさんありました。しかし、目を重ねることに慣れてくることも多く、今はすごく楽しいです。

先生の授業の組み立て方や、準備、声の強弱、保健の授業での板書の仕方や性教育の授業でどこまで話すのかも聞くことができ、すごく充実しています。また授業終わりには、質問もできるのですごく良い体験ができているなと思います。担当クラスや体育の授業だけでなく、特別支援学級のクラスで授業に参加することも多く、特別支援学級の方が生徒との関わりが多く自分も一緒に運動を行ったり、声をたくさんかけるように心がけています。

ただ、ATとはいえ、六角橋中学校にいる以上教師という立場で接しなければならないし、自分の行動ひとつひとつが見本とならなければいけないなと感じました。もっと自覚をもたなければいけないなと強く感じました。自分の考えが甘いなと体験を通して実感しました。部活指導においては、自分でメニューを考えながら、フィードバックを多くもち、なるべく充実したメニューを考えて実行できたので、生徒や顧問の先生から褒めていただいて感謝されたのは嬉しかったです。活動を通して、もっとできるとおもうし、いろいろなことを吸収して自分の引き出しが増える様に、まだまだ頑張らなければならないと思いました。

## 現場で活動することの難しさ

人間科学科 3 年 河上 誠貴

今年度の 4 月から、六角橋中学校で保健体育の AT として週に 1 日活動させていただいています。まだ 3 回しか活動することができていませんが、この数少ない中でもたくさんのことを学ぶことができます。

なぜ私が学校ボランティアを始めようと思ったかというと、実際に学校現場に入らせてもらって学べることは大学で勉強して学んでいることとは違った部分があると思ったからです。現在大学で指導案を書いたり、模擬授業などは行っているのですが、全く顔も知らない生徒を相手にコミュニケーションをとりながら授業を運営することは、学校現場に入るからこそ学ぶことができると 생각합니다。教師の行動を間近で見て吸収することができる AT は私にとってとてもプラスであり、保健体育の教師を目指す立場としてこの時間を大切に有意義に活動し、これから控えている教育実習や教師となって活動する時に生かして行きたいと思っています。

AT として活動していて感じることは、教師の引き出しの多さ、応用力です。私が中学生だった頃と比べて、流行っているもの、性格、個性も全く違っていると現場に出ることで改めて感じています。その中で教師は学年、クラス、男女、生徒の性格や個性によって生徒に対する接し方、コミュニケーションの取り方、生徒との距離を変えることで生徒の授業に取り組む態度ややる気を鼓舞させておられます。中だるみしている生徒が多く見られてだらだらしがちな 2 年生には、教師はいつも以上に元気に大きな声で指示を出されていたり、ON と OFF の切り替えができない 1 年生には、注意はされるができたときにはうんと褒めておられます。このことは、生徒の知識の習得にとってもつながっているのではないかと思います。2 コマ連続で同じ授業があったとしても、より効率のよい安全な授業にするために後に行う授業では前に行った授業を短時間で反省し改善し行動に移すという臨機応変対応もされており、毎回自分の力不足、現場で活動されている教師のすごさを痛感してばかりです。しかし、今現在の教育現場に出て活動するという貴重な経験をさせてもらっているからこそ、自分の未熟さに気づくことができるの

だと思います。これから、もっとたくさんのことを学び日々成長できるようにしていきたいです。

## 意識の向上

人間科学科 3 年 中嶋 一進

私は今年の 5 月から六角橋中学校のアシスタントティーチャーとして活動しています。主に保健体育の授業と特別支援学級の補助として活動し、1 年 8 組の学活や総合の時間にも参加しています。目標として、「生徒に対する教師の接し方、声掛け、指導上のポイントを見つけ、自分などのような行動をするかを考える。」掲げて活動しています。学校現場でしか見ることのできない、教師と生徒の関わる姿から学びたいと考えています。

毎回の授業の中で多くのことを経験し、学んでいます。5 月の前半は体育祭が近いこともあり、体育祭練習の授業が多かったです。学校行事の中でも大きな行事である体育祭、体育祭の練習を見ることができたのは、保健体育の教師を目指す上で貴重な経験となりました。しかし、授業の中では競技、道具の片づけの手伝いが多かったため、生徒と関わる機会も少なかったです。関わるのが少なくても、競技の練習の中などで教師と生徒の関わり方から見て学ぶことはできたと思います。特に深く考えず眺めているだけになっていたと思います。意識が低かったです。

体育祭が終わり、保健体育の授業を見ることができると楽しみな気持ちで授業に入りました。しかし、ここでも自分の意識の低さ、考えの甘さに気づきました。生徒に「先生」と呼ばれ、アドバイスを求められました。生徒の状況を理解し応えました。生徒の要求に応えることは普通の事です。私ができていなかったのは、困っている生徒や苦手が伝わってくる生徒に対してアドバイスを与えること、一緒に考えてあげるために声を掛けていくことができていなかったです。頭のどこかでボランティア、アシスタントティーチャーという考えがあり、遠慮していた部分がありました。生徒からすれば大学生とはいえ、教師であることには違いありません。



今は授業を行う教師の姿、生徒と関わる教師の姿を見て学び、進んで生徒と関わりを持つように心がけています。まだまだ甘い部分や勉強しなければならないことは多いです。自覚と責任感を持ち、今の自分にできる精一杯のことを行い、教師や生徒から多くのことを学んでいけるように貪欲に活動していきたいです。

## 生徒への声掛け

人間科学科 2年 上野 実恵子

六角橋中学校のATを始めてから半年が経ちました。昨年度は主に体育の授業を中心に見せていただき、今年度は特別支援級も見せていただく機会が増えました。

今年度の活動目標は「声がけを意識する」です。この目標にした理由は、昨年度活動していて、生徒によって声のかけ方を変えることが大切だと思ったからです。先生がバスケットボールの授業でシュートを教えていたとき、重心を移動してシュートを打てていない生徒に対して、「一回沈んでから投げてごらん」とアドバイスしました。しかし、その生徒はうまく打てていませんでした。それを見て先生は、「1,2と数えながら1で膝を投げて2で打ってごらん」と言いました。すると生徒は上手く重心を移動してシュートを打つことができるようになっていました。生徒によって理解するポイントが違うため、1つのポイントでもたくさんの説明の仕方を教師はできるようにならないといけないことを学びました。昨年度は周りから見てアドバイスすることが中心でした。しかし、もっと生徒と関わりを持ちながら声がけを増やしたいと思い、今学期からは生徒と一

緒に運動することになりました。すると、たくさんコミュニケーションをとることができ、生徒がどの部分でつまづいているのか分かるようになり、たくさん声がけをすることができました。しかし、私がアドバイスをして、生徒がやる気はあるのにできないままだと、すぐ私は情けない気持ちでいっぱいでした。まだまだその子に合った声がけはできておらず、私の声がけはまだ抽象的だと痛感しました。もっと具体的にその子にあった声がけができるようになりたいと思いました。

私は、まだ今学期の自分の目標は達成できていません。もっとたくさんの授業を見て、たくさんの先生方の声がけも意識して聞いて盗んでいきたいと思います。また、自分で日頃の大学の授業でも、先生が言った言葉に対して違う言葉でどう説明するのかを考えるようにしたいと思いました。そうすることで、説明のひきだしが増えるのではないかと思います。これからの活動でも声がけを意識しながら、その他のことも1つでも多く学べるよう積極的に行動していきたいです。



発行日：2015年 7月17日

発行所：神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL：045-481-5661（内線4352）

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

UPL：[http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher\\_training\\_course/jysp](http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp)